JP 406182063 A JUL 1994

(54) OUTER BLADE OF RECIPROCATION TYPE ELECTRIC RAZOR

(11) 6-182063 (A) (43) 5.7.1994 (19) JP

(21) Appl. No. 4-342206 (22) 22.12.1992

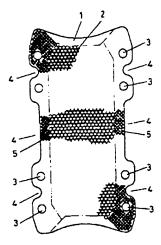
(71) MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD (72) TAKESHI FURUICHI

(51) Int. Cl5. B26B19/04

PURPOSE: To provide a skirt part with sufficient strength by reducing a difference of a blade thickness between a top part and the skirt part in the outer blade formed on the surface of a matrix with a roughly inverted U-shaped

cross section by a electrodeposition method.

CONSTITUTION: In an outer blade which has a roughly inverted U-shaped cross section with numerous blade holes 2 for guiding beard and formed on the surface of a matrix with a roughly inverted U-shaped cross section by an electrodeposition method, a skirt part is provided with a notch 4 or the skirt part is provided numerous holes 5. The area of the skirt part is reduced with the notch and a number of holes to ensure a sufficient current density in the electrodeposition thereby eliminating reduction in the blade thickness of the skirt part.



THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19)日本国特許庁 (JP) (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-182063

(43)公開日 平成6年(1994)7月5日

(51) Int.Cl.5

識別記号

庁内整理番号

FΙ

技術表示箇所

B 2 6 B 19/04

T 7041-3C

審査請求 未請求 請求項の数2(全 3 頁)

(21)出願番号

特願平4-342206

(22)出願日

平成4年(1992)12月22日

(71)出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72)発明者 古市 武

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株

式会社内

(74)代理人 弁理士 石田 長七 (外2名)

(54) 【発明の名称】 往復式電気かみそりの外刃

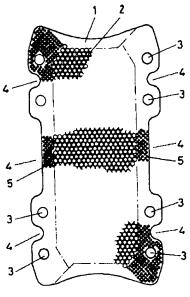
(57)【要約】

【目的】 断面略逆U字形の母型表面への電鋳工法で形 成されたものにおける頂部と裾部との刃厚差が少なく、 裾部が十分な強度を有している。

【構成】 多数の髭導入用の刃孔2を備えるとともに略 逆U字形の断面形状を有して、断面略逆U字形の母型表 面への電鋳工法で形成されているものにおいて、裾部に 切欠4を設ける。もしくは裾部に多数の孔5を設ける。 裾部の面積が切欠や多数の孔によって減じられているた めに、電鋳時に十分な電流密度を確保することができ て、裾部の刃厚が減じてしまうことがない。

- 外刃
- 刃孔
- 切欠





TAVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 多数の髭導入用の刃孔を備えるとともに 略逆U字形の断面形状を有して、断面略逆U字形の母型 表面への電鋳工法で形成されているものにおいて、裾部 に切欠を具備していることを特徴とする往復式電気かみ そりの外刃。

【請求項2】 多数の髭導入用の刃孔を備えるとともに 略逆U字形の断面形状を有して、断面略逆U字形の母型 表面への電鋳工法で形成されているものにおいて、裾部 に多数の孔を具備していることを特徴とする往復式電気 10 かみそりの外刃。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は往復式電気かみそりの外 刃、殊に電鋳工法で形成されている外刃に関するもので ある。

[0002]

【従来の技術】薄金属板からなるとともに多数の髭導入 用の刃孔を備えている電気かみそりの外刃の製法とし 形成と一次メッキの付加とを行った後に電鋳を行うこと で外刃を形成する電鋳工法がある。この電鋳工法にて形 成した外刃は、その製作後に湾曲させたりすることがで きないために、断面が略逆U字形となっている外刃を形 成する場合は、断面略逆U字形の母型表面に電鋳を行う ことで製作することになる。

[0003]

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記断面形状 を有する母型を用いて電鋳を行う場合、その頂部と電極 との間の距離よりも裾部と電極との間の距離が長くなっ てしまうために、できあがった外刃はその裾部の刃厚が 頂部よりも薄くなってしまうものであり、外刃枠への取 り付けに利用される外刃の裾部の強度の低下が問題とな っている。

【0004】本発明はこのような点に鑑み為されたもの であり、その目的とするところは断面略逆じ字形の母型 表面への電鋳工法で形成されたものにおける頂部と裾部 との刃厚差が少なくて、裾部が十分な強度を有している 往復式電気かみそりの外刃を提供するにある。

[0005]

【課題を解決するための手段】しかして本発明は、多数 の髭導入用の刃孔を備えるとともに略逆じ字形の断面形 状を有して、断面略逆U字形の母型表面への電鋳工法で 形成されているものにおいて、裾部に切欠を具備してい ること、もしくは裾部に多数の孔を具備していることに 特徴を有している。

[0006]

【作用】本発明によれば、裾部の面積が切欠や多数の孔 によって減じられているために、電鋳時に十分な電流密 度を確保することができて、刃厚が減じてしまうことが 50 1 外刃

ないものである。

[0007]

【実施例】以下本発明を図示の実施例に基づいて詳述す ると、図1は一実施例の外刃1の展開図、図2は同上の 斜視図であって、その短手方向における断面形状が逆じ 字形となっているだけでなく、長手方向においても湾曲 した形状となっている図示の外刃1は、その頂部に多数 の髭導入用の刃孔2を有しており、短手方向の裾部に は、外刃枠(図示せず)への取付用の取付孔3を有して いる。また、裾部には、複数個の切欠4と、多数の孔5 とを備えている。

2

【0008】この外刃1は、図2に示した外刃1の形状 に合致した形状を有している母型表面への電鋳によって 形成されたものであるが、上述のように、裾部に設けら れた切欠4や多数の小さい孔5 (正確には母型表面にお けるこれら切欠4や孔5の形成のための部分)は、裾部 の面積を小さくしているために、電鋳時の電流密度が増 大するものであり、このために裾部の刃厚も頂部とさほ ど変わらぬ厚みとすることができる。なお、本実施例に て、アルミニウム等にて形成した母型表面にレジストの 20 おいては、切欠4と多数の孔5との両方を設けたものを 示したが、一方だけであってもよい。

> 【0009】図3に示す実施例は、上記切欠4及び多数 の孔5に加えて、取付孔3を段付きの孔として形成する ことで、つまりは、図4に示すように、母型6における 取付孔3の形成部63を段付きとしておくことによっ て、取付孔3周辺部の肉厚が厚くなるようにしたものを 示している。図中61はレジスト、62は一次メッキで ある.

> 【0010】図5に示す実施例は、裾部に切欠4を設け るとともに、裾部を波板状の断面を有するものとして強 度向上を図ったものである。

[0011]

【発明の効果】以上のように本発明においては、裾部の 面積が切欠や多数の孔によって減じられているために、 電鋳時に十分な電流密度を確保することができて、刃厚 が減じてしまうことがないものであり、このために裾部 に十分な強度を持たせることができて、裾部が利用され る外刃の外刃枠への取付強度が問題となることがないも のである。

【図面の簡単な説明】 40

【図1】一実施例の展開図である。

【図2】同上の斜視図である。

【図3】他例を示すもので、(a)は斜視図、(b)はA - A 線断面図である。

【図4】(a)(b)(c)は同上の製造工程を示す断面図であ る。

【図5】別の例を示すもので、(a)は斜視図、(b)はB-B線断面図である。

【符号の説明】

BEST AVAILABLE COPY

THIS PAGE BLANK (USPTO)